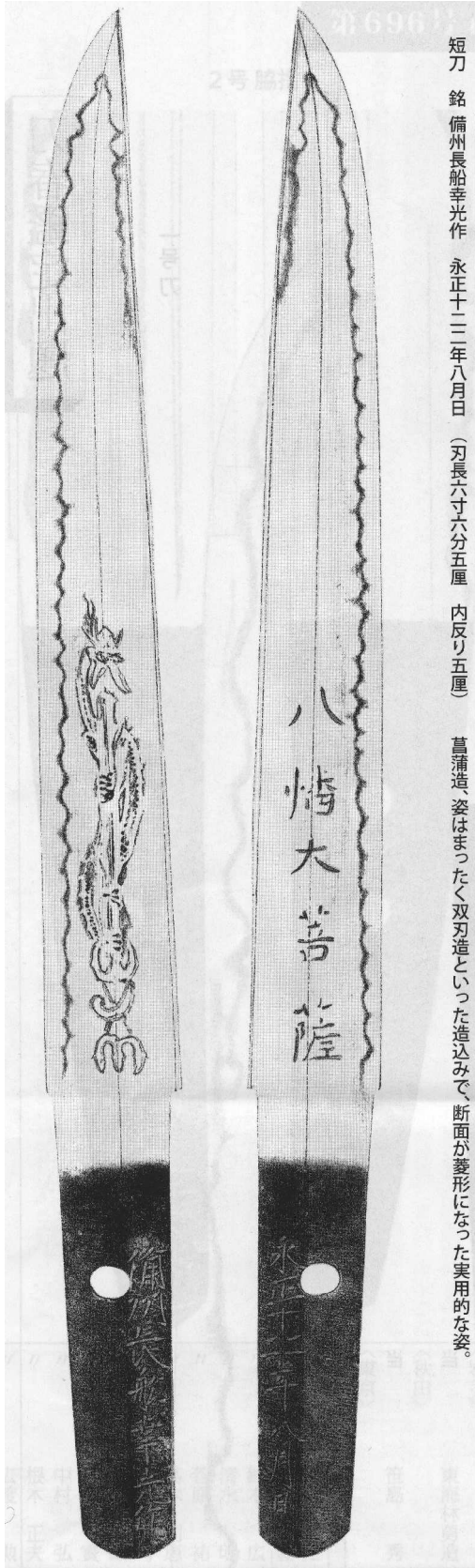


日本刀鍛錬所 竹花繁久

戦国双刃短刀 竹花繁久作



短刀 銘 備州長船幸光作

永正十三年八月日

(刃長六寸六分五厘)

内反り五厘

葛浦造姿はまったく双刃造といった造込みで、断面が菱形になった実用的な姿。



刀匠研ぎの刀身をスキャンしました

室町末期の戦国時代は織田信長が鉄砲を本格的に戦場に導入して最も激しい集団戦闘が行われた時代です、この時代の刀を末古刀と言い、最も日本刀が特徴的な姿をした時代であります。それは、鉄砲から身を守る甲冑がより堅牢になりそれに負けない刀が時代の要求で造られたからです。この刀は片手振りと言われる姿で二尺二寸程、身巾が狭くふくらの張った反りの大きい刀姿をしています。そして格闘になったとき相手の堅牢な甲冑を突き通し、さらに押し回して絶命させる威力のある短刀が要求されたのです。この時代の短刀である備前長船幸光作双刃の短刀の押し型をご紹介します。また、共に、刀匠竹花一貫齋繁久の双刃造り短刀を今回御案内いたします。侍なら一振りもっていただきたい短刀です。また、そうでない方もいづれくる旅立ちの時に！。中心に所持名を入れ、次の世代に引き継ぐのかけがいのない思い出となるでしょう。この刀匠繁久の入魂の末古刀写し、機能美のみを追求した双刃短刀をお求め安い打ち下ろし刀でも（通常は研ぎ師に依頼して化粧研ぎに白鞘付の状態です）販売いたします。刀身彫り等も承りますが、相当の期間を要します。お問い合わせは、武蔵武士発祥の地で鍛刀する竹花繁久日本刀鍛錬所、〒事務局長まで、

手頃な打ち下ろし刀価格より（繁久銘入り桐箱所持名付き）、通常の化粧研ぎ（白鞘付）から極上の龍刀身彫り等まで